

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 教育方針

「自主・創造・連帯」の校訓のもと、自分の夢に向かって自発的に学習することや、部活動・学校行事を通じて仲間と協働することで、「知力、気力、体力」のバランスのとれた生徒を育成する。

- 1 学力向上と第一志望の進路実現をめざし、「チームさやま」として教職員が一丸となって、頑張る生徒を応援し課題を抱える生徒を支える学校
- 2 規律正しい生活習慣・学習習慣を確立し、あいさつ、掃除（整理整頓）、時間厳守（遅刻減少）をさらに徹底させ、他者への思いやりを身に付ける学校
- 3 国際交流（姉妹校連携）と地域連携（大阪狭山市唯一の高等学校）の双方に軸足を置き、「国際感覚を備えた地域に貢献できるリーダー」を育てる Global High School を推進する学校
- 4 いじめのない、一人ひとりに自分の居場所がある安心・安全な学校

## 2 中期的目標

## 1 さらなる学力向上と進路保障

- (1) 新学習指導要領に則して「主体的・対話的で深い学び」をめざし、思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりに取り組む。
  - ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、議論、発表を通じて思考力・判断力・表現力を向上させるとともに、「観点別学習状況の評価」について研究する。  
\*思考の発芽（図書館・インターネットの活用）、思考の見える化（カードやホワイトボードの活用）、思考のゆさぶり（発表 / 質問 / 議論 / 助言）  
講義型授業から思考を引出し学習の深化を図る。
  - イ 今後導入される1人1台端末やプロジェクター等のICT機器を活用して生徒の興味・関心を引き出すとともに、教員と生徒又は生徒同士で対話のある授業を行うことで真の理解をめざす。
  - ウ オンライン学習の体制を構築する。
- (2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。
  - ア 生徒の進路希望を尊重したカリキュラムマネジメントを行い、主体的な学びや意欲的な学びを引き出す。
  - イ 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。
  - ウ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。  
※生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」、「授業の工夫度」、「カリキュラム満足度」を令和5年度に3項目すべてにおいて85%以上をめざす。（「授業満足度 H30:65.1%、R1:77.5%、R2:78.7%」「授業の工夫度」(H30:78.1%、R1:83.9%、R2:83.6%)「カリキュラム満足度」(H30:72.3%、R1:77.7%、R2:81.2%)  
※進路ガイダンス/進学講習の充実を令和5年度に85%以上を維持・向上する。(H29:80.2%、H30:79.8%、R1:81.9%、R2:87.9%)  
※教職員向け学校教育自己診断「系統的な進路指導の実施」を令和5年度に80%に向上させる。(H30:73.1%、R1:67.3%、R2:53.8%)  
※国公立・関関同立 合格者のべ70人以上をめざす。(H30:70人 R1:39人、R2:38人)

## 2 キャリア教育のための環境づくり

- (1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。
  - ア 「総合的な探究学習」や「道徳教育」を着実に実施し、将来を見据えた人格形成を促す。
  - イ SDGs（持続可能な開発目標）の視点をもった、国際交流及び地域連携を通じて人とのかかわりを体験させる。
  - ウ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。
  - エ 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。
- (2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。
  - ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。
  - イ 1人1台端末の導入に向けて、情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。  
※生徒向け学校教育自己診断「人権（人権の尊重）」の肯定的評価を令和5年度に85%以上に向上する。(H30:77.7%、R1:81.9%、R2:80.8%)  
※教職員向け自己診断「人権尊重に学校全体で取り組む」を令和5年度に80%以上に向上する。(H30:73.0%、R1:76.5%、R2:60.4%)
- (3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。
  - ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SCとも連携しながら、学校としての相談体制を明確にする。
  - イ 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を与える工夫をする。  
※生徒向け学校教育自己診断「学校生活満足度」令和5年度に90%以上をめざす。(H30:78.2%、R1:83.3%、R2:84.9%)  
同じく「相談体制満足度」を令和5年度に70%以上をめざす。(H30:56.7%、R1:68.1%、R2:65.7%)

## 3 学校改革に向けての体制づくり

- (1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。
  - ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。  
加えて、地震・台風等の自然災害、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。
  - イ 「働き方改革」を推進し、校務の精査と、分掌・委員会の統合・再編を行い、教職員の負担軽減と職務の平準化を図る。超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。
- (2) 学校を取り巻く関係団体（PTA、同窓会、後援会、地域行政、地域住民）との関係強化と広報・情報発信に取り組む。
  - ア 「文化部フェスタ」「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。
- (3) 学校運営協議会の提言を具現化する。
  - ※教職員向け学校教育自己診断「学校運営の勤務充実度」を令和5年度に90%以上をめざす。(H30:86.8%、R1:81.1%、R2:85.5%)
  - ※保護者向け学校教育自己診断「学校満足度」を令和5年度に90%以上の維持・向上めざす。(H30:88.8%、R1:89.6%、R2:91.1%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見																												
<p><b>【1 学習指導】</b></p> <p>生徒向けの質問項目のうち「本校の先生は教え方に様々な工夫をしていると思いますか」が89.3% (+5.7p)、「本校の授業はあなたの期待に応えることができていると思いますか」は82.6% (+3.9p)と、昨年度と比べて若干ではあるが肯定的回答が増加している。また、「本校のカリキュラムはあなたの興味、関心、適性、進路に応じた選択ができるものだと思いますか」は86.6 (+5.4p)で、過去5年で最高であった昨年度をさらに上回った。(※下記一覧表)。</p> <p>※質問項目に「1 とてもそう思う」「2 どちらかといえばそう思う」の合計比率(単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="153 572 905 730"> <thead> <tr> <th>肯定的回答の比率</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業の工夫</td> <td>73.5</td> <td>78.9</td> <td>78.1</td> <td>83.9</td> <td>83.6</td> <td>89.3</td> </tr> <tr> <td>期待に応える授業</td> <td>62.2</td> <td>73.1</td> <td>65.1</td> <td>77.5</td> <td>78.7</td> <td>82.6</td> </tr> <tr> <td>カリキュラム</td> <td>67.7</td> <td>76.7</td> <td>72.3</td> <td>77.7</td> <td>81.2</td> <td>86.6</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【2 進路指導】</b></p> <p>進路指導に関する質問で、「あなたは進路実現に向けて、真面目に学習に取り組んでいますか」の肯定的回答は77.9% (-1.6p)であった。学年別では1年生70.8%、2年生69.7%、3年生91.9%で、2、3年生の経年変化を見ると、2年生は71.9%→69.7%、3年生は70.3%→73.8%→91.1%と推移している。1、2年生では7割、3年生では9割の生徒が進路実現に向けて熱心に学習に取り組んでいる自覚があるといえるが、1、2年生の時期からもう少し割合が上がるような工夫が必要である。</p> <p><b>【3 高校生活】</b></p> <p>(1)高校生活の充実度及び教育相談体制</p> <p>「あなたは、本校でいきいきと充実した生活ができていると思いますか」に対して90.5% (+5.6p)の生徒が肯定的回答をした。「あなたは本校で、友好的な人間関係を築けていると思いますか」に対しては95.1% (-0.6p)が肯定的な回答で、そのうち65.0%が「強く思う」としている。例年85%～90%で高位安定しているが、今年度はさらに高い数値となった。昨年度初めの臨時休業の経験から友人とのつながりを強く意識しているのかもしれない。</p> <p>「担任の先生以外で保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいますか」の問いには70.5% (+4.8p)の肯定的回答であった。担任に対して何でも相談できる関係はおおむね築けていると感じているが、さらに担任以外の教員にも相談できる生徒が増加していることは喜ばしい。今後もさまざまな教員が1人の生徒に関わるような教育相談体制を構築する必要がある。(H30.73.4%→R1.68.1%→R2.65.7%)</p> <p>(2)学校行事</p> <p>1学期は感染症の影響でクラスマッチや遠足を延期せざるを得なかったが、方針としては、感染症の拡大状況を見ながらできるだけ学校行事を開催すること、特に最終学年である3年生の行事を優先して行うこととした。その結果6月の体育大会は午後の2時限を使って3年生のみのスポーツイベントとして行った。本来であれば企画や運営を生徒に担わせるべきであるが、時間的なこともあり、教員主導で行った。表彰式では7月にUSJへの1泊2日の修学旅行を実施することを発表し、生徒たちが非常に喜んでくれた。</p> <p>文化祭は当初の開催の予定であった9月上旬に3年生のみ実施し、その後10月下旬に1、2年生で実施と密を避けるために分散して開催した。3年生は伝統的にクラス劇をしているが、どのクラスも工夫を凝らした劇を作り上げていた。保護者の入場も制限を加えながら可とし、感染者が出ることもなく無事に終えることができた。</p> <p>2年生の修学旅行は、当初1月上旬に3泊4日で沖縄方面石垣島へ行く予定であったが、感染症の拡大を考え、昨年度中に10月初旬の岐阜、飛騨高山方面と変更した。しかし、この計画も今年8月に緊急事態宣言が9月末まで延長されたことを受け、さらに日程と行先を変更し、11月上旬の2泊3日(滋賀県信楽・栗東、京都府嵐山で体験学習し、京都市内に宿泊、最終日は三重県長島スパーランドを訪問)と変更し実施した。近距離であったため生徒は物足りない思いをしたと思う。1年生は10月上旬に嵐山への遠足が唯一の学年としての行事となった。</p> <p>2月の耐寒登山をスポーツイベントの開催に変更することを検討したが、オミクロン株の感染拡大状況から断念した。この1年も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症が学校行事に与えた影響は大きかった。</p> <p>(3)部活動</p> <p>生徒向けの「あなたは、部活動に積極的に取り組んでいると思いますか」の質問に対して、72.5% (-1.7p)が肯定的回答であった。運動系・文化系合わせて約80%の加入率から考えるとやや物足りないが、今年も緊急事態宣言下では活動が制限されたことから、モチベーションが上がらなかった面もあるかと思われる。対外試合や発表会を通じて多くの体験を積むことができること、高校時代の部活動でしか経験できない先輩、後輩、顧問の教員、外部指導者、他校の生徒などとの広い範囲の人間関係を学ぶことは、社会人になった時に大きな財産になるので、引き続き、加入率を上げることと生徒の積極的な取組みが促進するよう注力する。教員向けの「本校では生徒が充実感を得られるように部活動を運営していると思いますか」は94.5% (±0p)と高かった。</p>	肯定的回答の比率	H28	H29	H30	R1	R2	R3	授業の工夫	73.5	78.9	78.1	83.9	83.6	89.3	期待に応える授業	62.2	73.1	65.1	77.5	78.7	82.6	カリキュラム	67.7	76.7	72.3	77.7	81.2	86.6	<p>第1回 (6/23)</p> <p><b>【安心・安全な学校について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も新型コロナウイルス感染症に影響された教育活動となるであろうが、感染予防策をしっかりと講じて、生徒が安全・安心に登校できる環境を整備してほしい。また、コロナ不安による不登校や家庭の経済状況の変化など、子どもたちの様子を十分に見ていただき、ケアしていただきたい。</li> </ul> <p><b>【地域連携(大阪狭山市唯一の高等学校)について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生にとっての「行きたい学校1番手」になることも大切だが、2番手、3番手として「行ってもよい学校」となるよう特色を打ち出すことも大切である。</li> </ul> <p><b>【国際交流、SDGsの取組みについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流に興味があるのは、韓国が交流校だからか。ある中学校では国内の民族学校との交流が盛んなことを聞いている。韓国語での交流ができているのは良いことだと思う。</li> <li>日常生活にSDGsの視点を入れるという話をJICAでもしているの、出前授業などを活用していただきたい。</li> </ul> <p>第2回 (10/27)</p> <p><b>【安心・安全な学校について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感染状況が拡大して、引きこもりや不登校になった生徒はいるのか。(→現在のところはいい)今後、そのような生徒が出てくることも考えられるので、引き続き、生徒の変化を見逃さない体制をお願いしたい。</li> </ul> <p><b>【1人1台端末の配付について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回(6月)の学校運営協議会での報告では、オンライン授業の体制を今後構築していくという報告であったが、その後の4か月の間に配信の手順や学びの保障についてのガイドラインが作成されていて、かなり進んだと感じる。</li> <li>塾では対面とオンライン配信の両方で授業を行っている。それが当たり前になってきていて、ベテランの先生方も積極的に取り組んでいる。そのことによって、部活動の後でしんどいから授業はオンラインで受けるという生徒が増えている。これも時代のニーズと考えている。学力向上という点では対面授業の方がメリットがあるだろう。学校と共通の研究課題である。</li> </ul> <p>第3回 (2/9)</p> <p>○令和3年度学校経営計画評価(案)について</p> <p><b>【英検全員受検について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定と分析をきちんとお願いしたい。</li> </ul> <p><b>【オンライン授業について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員のオンライン授業のスキルが上がれば上がるほど、オンライン授業での満足度が上がるので、意識した声かけや生徒に発言や発表させる工夫が必要となる。</li> <li>匿名で質問が受け付けられるアプリを活用すると、活発な意見交換ができる。</li> <li>オンラインと対面の両方を使えるのがいちばん効果的である。オンラインだけに偏るのは、不安である。</li> <li>家庭でのネット環境は整備されているのか。→全家庭で受信できている。府から貸与されたモバイルwi-fiを貸し出したこともあった。</li> </ul> <p><b>【地域連携について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、生徒のみなさんといっしょに公民館活動を行うことができよかった。地域の方からは、高校生から元気をもらったという声を聞くことができた。ぜひ、継続してほしい。</li> <li>地域からの期待も大きいので、狭山池クリーンアクションへの参加も活発に行ってほしい。</li> </ul>
肯定的回答の比率	H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
授業の工夫	73.5	78.9	78.1	83.9	83.6	89.3																							
期待に応える授業	62.2	73.1	65.1	77.5	78.7	82.6																							
カリキュラム	67.7	76.7	72.3	77.7	81.2	86.6																							

<p>(4)国際交流 感染症の影響で、今年度も2つの姉妹校(豪州のCarey校と韓国の景福高校)との対面での交流ができない1年であったが、景福高校とのオンライン交流を6月(景福高校20名、本校生徒25名)、11月(景福高校20名、本校生徒14名)の2回開催することができた。11月は1人1台端末配備後であったので、LAN教室ではなく各教室に分散して交流した。緊張しながらも交流を楽しめたという感想が多く、今後も国際交流に興味をもっている生徒のニーズに答えられるような企画をするとともに、全校生徒へ広げる工夫をしていきたい。「本校が行っている語学研修等の国際交流事業は魅力があると思いますか」は70.2%(+3.2p)であった。</p> <p>(5)地域ボランティア 今年度も「狭山池まつり」が早々に中止となったが、感染症が落ち着いた頃に11月、12月、1月に本校に小学生を招いたり、公民館のイベントに本校文化部が参加するなど、昨年度よりは連携の機会を増やすことができた。総合(家庭)の授業での手話講座と保育所訪問は実施することができた。狭山池の清掃活動(クリーンアクション)は、部活動の生徒を中心のべ200人以上が参加した。今年度は、部活動に所属していない生徒の参加もあり、地域の実行委員会の方に良い取組であるとの言葉をいただいた。「あなたは本校の地域清掃や地域連携活動でボランティア精神が高まったと思いますか」の質問に対する肯定的回答は68.0%(+5.6p)となり、コロナ禍で活動は制限されたが生徒の意識の向上にはつながった。大阪狭山市唯一の高等学校であり、今後とも生徒の自主的な地域連携を積極的に支援したい。</p>	<p>○令和4年度学校経営計画(案)について</p> <p>【学校行事について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の影響はまだぬぐい切れないと思うので、行事の延期を見越したうえで年間行事予定を策定する必要がある。</li> </ul> <p>【教育相談体制について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヤングケアラーへの適切な支援」とあるが、福祉につなぐ具体的な方策はあるのか。→地域の児童相談所やCSとの連携ができる。</li> </ul>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 さらなる学力向上と進路保障	<p>(1) 新学習指導要領に則して「主体的・対話的で深い学び」をめざし、思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりに取り組む。</p> <p>(2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、議論、発表を通じて思考力・判断力・表現力を向上させるとともに、「観点別学習状況の評価」について研究する。 *思考の発芽(図書館・インターネットの活用)、思考の見える化(カードやホワイトボードの活用)、思考のゆさぶり(発表/質問/議論/助言) 講義型授業から思考を引出し学習の深化を図る</p> <p>イ 今後導入される1人1台端末やプロジェクター等のICT機器を活用して生徒の興味・関心を引き出すとともに、教員と生徒又は生徒同士で対話のある授業を行うことで真の理解をめざす。</p> <p>ウ オンライン学習の体制を構築する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒の進路希望を尊重したカリキュラムマネジメントを行い、主体的な学びや意欲的な学びを引き出す。</p> <p>イ 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。</p> <p>ウ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校自己診断結果の授業満足度80% [78.7%]</li> <li>・生徒向け学校自己診断結果の授業の工夫80% [83.6%]</li> <li>・授業アンケートの教員平均3.3 [3.3]</li> <li>・各教科におけるアクティブラーニング型の研究授業実施</li> </ul> <p>ウ 長期休業中の課題の配信2回以上</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校自己診断結果のカリキュラム満足度80% [81.2%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員向け学校自己診断結果の系統的な進路指導70% [53.8%]</li> </ul> <p>イ 生徒向け学校自己診断結果のキャリア教育満足度80% [87.9%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学・関関同立合格者:延べ70人以上 [38人]</li> <li>・狭山将来構想PTによる改革引き続き、進路実績向上をめざしてカリキュラム、補習、部活動・行事・広報を含めた学校運営全般の見直し及び改革を行う。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <p>コロナ禍であったが、マスク着用を徹底し、グループワークや発表を可能な限り取り入れた授業実践を行うことができた。10月に端末配備が完了してからは、各教科で課題の配信、小テスト、調べ学習と発表等を行うことができた。すべての教科での活用が今後の課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断の授業満足度82.0% (○)</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断の授業工夫89.3% (◎)</li> <li>・授業アンケート教員平均は第1回3.41、第2回3.40 (◎)</li> </ul> <p>ウ</p> <p>夏期休業中の課題配信を計画し、臨時休業中のオンライン配信の教科担当者の試行とする予定であったが、スキルアップが進み、各教科で課題の配信や授業のライブ配信のスキルがアップしたため、一斉の課題は取りやめ、必要に応じて個別の対応とした。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <p>将来構想PJで議論し、進路指導部を中心に3年間を通じたキャリア教育のスケジュールを模索し始めたところ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導を丁寧に行い、個別指導や家庭学習指導を概ね充実させることができた。</li> <li>・生徒向け学校自己診断結果のカリキュラム満足度86.6% (◎)</li> <li>・教員向け学校自己診断結果の系統的な進路指導72.3% (◎)</li> </ul> <p>イ 進学実績 国公立6人、関関同立27人計33人 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年は1月に英検の全員受検を実施。9月からは教育産業の無料のアプリケーションソフトを生徒各自のスマートフォンまたは配備した端末に入れて活用させた。</li> <li>・生徒向け学校自己診断結果のキャリア教育満足度88.9% (◎)</li> </ul>

## 府立狭山高等学校

<p style="text-align: center;">2 キャリア教育のための環境づくり</p>	<p>(1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。</p> <p>(2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。</p> <p>(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。</p>	<p>(1) ア 「総合的な探究学習」や「道徳教育」を着実に実施し将来を見据えた人格形成を促す。 イ SDGs（持続可能な開発目標）の視点をもった、地域連携及び国際交流を通じて人とのかかわりを体験させる。 ウ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。 エ 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。</p> <p>(2) ア すべての生徒に、基本的な人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。 イ 1人1台端末の導入に向けて、情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。</p> <p>(3) ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SCとも連携しながら、学校としての相談体制を明確にする。 イ 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を与える工夫をする。</p>	<p>(1) イ・生徒向け学校自己診断結果の「ボランティア意識」70% [62.4%] ・生徒向け学校自己診断結果の「国際交流の魅力」80% [70.2%] ・狭山池クリーンアクションへの参加人数のべ500人 [約300人] エ・ビブリオバトル本大会出場3回目をめざす。[開催されず]</p> <p>(2) ア・生徒向け学校自己診断結果の人権意識80% [80.8%] ・教職員向け学校自己診断結果の人権への取組み80% [60.4%]</p> <p>(3) ア・生徒向け学校自己診断結果の教育相談満足度75%以上 [65.7%] ・保護者向け学校自己診断結果の相談体制満足度85%以上 [72.3%] ・教職員向け学校自己診断結果のカウンセリングマインド80%以上 [75.4%]</p>	<p>(1) イ 地域連携のイベントである狭山池クリーンアクションは感染症拡大のため中止の月もあり、参加人数は伸び悩んだが、新たに、公民館と連携したイベントに参加したり、小学生を学校に招いたりする企画ができた。国際交流は韓国の姉妹校とのオンライン交流を2回実施。 ・生徒向け学校自己診断結果の「ボランティア意識」68.0% (○) ・生徒向け学校自己診断結果の「国際交流の魅力」70.4% (○) ・狭山池クリーンアクションへの参加人数のべ200人 (○)</p> <p>エ 2学年の修学旅行の日程が変更となり、準備期間がなくなったことから、ビブリオバトル府大会への参加は断念し、2月に2学年が校内でクラス代表者の発表会を実施し、来年度につながることはできた。(○)</p> <p>(2) ア 生徒向け人権研修は、FUNKISTのボーカル染谷西郷氏を招いて、アパルトヘイトや国際問題、いじめ問題などの体験談と歌を鑑賞した。生徒たちは集中して受け止めていた。教職員向けの人権研修は8月19日(水)に元府立高校長で、長年人権学習に取り組んでこられた追手門学院大学社会学部教授の平野智彦氏をお招きし、「人権教育を進めるために大切なこと～なぜ高校で人権学習に取り組むのか～」というテーマでお話しいただき、わかりやすく解説が好評であった。 ・生徒向け学校自己診断結果の人権意識86.7% (◎) ・教職員向け学校自己診断結果の人権への取組み69.8% (○)</p> <p>(3) ア SC 来校時の生徒、教員からの相談数は増加傾向。SCを交えてケース会議を開き、その情報を担任会で共有するしくみは整ってきた。 ・生徒向け学校自己診断結果の教育相談満足度70.5% (○) ・保護者向け学校自己診断結果の相談体制満足度73.3% (○) ・教職員向け学校自己診断結果のカウンセリングマインド81.1% (◎)</p>
<p style="text-align: center;">3 学校改革に向けての体制づくり</p>	<p>(1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。</p> <p>(2) 学校を取り巻く関係団体（PTA、同窓会、後援会、地域行政、地域住民）との関係強化と広報・情報発信に取り組む。</p> <p>(3) 学校運営協議会の提言を具現化する。</p>	<p>(1) ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。 加えて、地震・台風等の自然災害、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。 イ 「はたらき方改革」を推進し、校務の精査と、分掌・委員会の統合・再編を行い、教職員の負担軽減と職務の平準化を図る。超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。</p> <p>(2) ア 「文化部フェスタ」「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校自己診断結果の「いじめへの対応」80%以上 [84.0%] ・教職員向け学校自己診断結果のいじめへの対応80% [87.1%]、危機管理80% [75.9%] ・地震・火災を想定した年2回の防災訓練時に台風も含めた命を守る防災教育を実施する。[図上2回] ・感染症、熱中症、食物アレルギーなど生徒の健康・安全予防に関する職員研修を最低年3回実施する。[2回]</p> <p>イ・教職員向け学校自己診断結果の勤務の充実度85% [85.5%]</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校自己診断結果の「いじめへの対応」87.8% (○) ・教職員向け学校自己診断結果のいじめへの対応86.8% (○)、危機管理81.2% (○) ・防災訓練は図上で2回実施 (○) ・安全予防に関する研修は2回実施 (○) 4月に食物アレルギーとエビペンの使い方の研修を実施。また2月に救急救命に関してAEDの使い方の研修を実施。ただし、講師を招く予定を感染症予防の観点から動画の視聴に変更して実施した。 イ・教職員向け学校自己診断結果の勤務の充実度85.2% (○)</p>